

ノーマライゼーションに関する講義を受けて  
—普通の暮らしを味わう権利とよりよい社会に向けての看護職としての視点について—

国際医療福祉大学大学院 保健医療学専攻 看護学分野  
公衆衛生看護学領域実践コース修士課程1年 鈴木未来

今回は貴重なご講義を大変にありがとうございました。

ゆきさんのお話を聴く中で、本質としての「ノーマライゼーション」を捉えることができました。どんなハンディキャップがあったとしても、人間には普通の暮らしを味わう『権利』があり、社会にはその権利を実現する『責任』があるという言葉に、とても身が引き締まる思いでした。自身の学部時代の実習を思い返せば、介護老人保健施設や病棟といった環境において大勢が一つの部屋にいることや精神病院が山奥にあることなど、少し違和感を覚えていたことを思い出しました。カーテンで区切られているけれど話し声が聞こえる環境であったり、山奥で空気は澄んでいるけれど中々人との交流が少ないさみしさもある環境など、改めて考えさせられるきっかけとなりました。誰もが同じように生活する権利がある、誰もが同じようにその人らしいライフスタイルを送る権利があるという考えは、どの職務についても看護職として決して忘れてはいけないことであると実感いたしました。

また特に認知症の方と精神疾患を持つ方のお話も出てきておりましたが、ノーマライゼーションが保障されていない環境になりやすいのではないかと再認識いたしました。学部時代に受け持った認知症の方は4点柵を当たり前かのように行われており、とても驚いた経験があります。確かに突然立ち上がろうとしたり抜け出そうとする様子から、転倒転落のリスクが高いことが問題ではありますが、その行動の背景には様々な考えがあるのではないかと思います。その方にとっての生活リズムがあり、自分で決める権利があり、行動には思いがある、という人格の尊重には「普通に暮らしを味わう権利」という根底の考えが重要です。そのため、その方の行動背景や考えを傾聴し考察していく医療者側の態度を培うためには、このノーマライゼーションの考え方と8原則の普及が必要不可欠ではないかと考えを深めることができました。

また様々な活動や事例を通して、正しく理解しより良くしていく方法を試行錯誤することの重要性を実感いたしました。身体拘束や医療者の虐待という悲惨な問題の解決には、相手の生命尊厳を尊重し、信じぬく人間としての関わりという基盤となる考えが重要だと感じます。講義の中に出てきた様々な人や団体の活動に、人とのつながりや楽しみながら挑戦していける環境こそが大切であると感じ、「ノーマライゼーション」の重要性について再認識いたしました。

加えて講義のスライドにある「ハンディキャップをおった人々のために政治家や行政官、まわりの人がなにかをしようとするとき 一番大切なのは、自分自身がそのような状態におかれたとき、どう感じ、何をしたいか、それを真剣に考えることでしょう。そうすれば、答えはおのずから導きだせるはずです」という言葉にはっとさせられました。自分がそのような状況になったらどう感じるのか、何をしたいと思うのか、どうするのか。この困難や苦労を自分事として捉え同苦する心が、問題解決や相手を本当に理解していくために重要であると考えます。人間はいつ病気や障害を持つのかわからないからこそ、社会をより良くしながら、全員が暮らしやすいように試行錯誤していくのが大事なのではないかと考察することができました。

看護修士課程に身を置く人間として、問題をただ問題と認識するだけでなく、そこにある苦難や苦労に同苦する人間としてのところを忘れずに日々を過ごしていきたいと思います。また「ノーマライゼーション」を学び進めながら、人間には普通に暮らす権利があるということを胸に、今後もよりよい社会に向けて試行錯誤を続けていきたいと思います。

改めて、貴重なご講義を大変にありがとうございました。